

教頭会会報

宮崎県公立小中学校教頭会

第142号 2022

令和4年11月21日発行



〈 表 紙 〉

【写真左上】 東児湯支会「都農東小学校内野々分校」

都農東小学校内野々分校は、長野、内野々、船川、平山の4地区からなる。令和4年度児童数は11名。東は日向灘、西は尾鈴山連山と豊かな自然の中に、明るく元気な子どもたちの声が響く。宮崎県内最後の分校。懐かしさを感じさせる佇まいは、ほのぼのとした気持ちにさせてくれる

【写真右上】 東諸県支会「大坪の一本桜」

国富町にある「大坪の一本桜」。この桜は、八代郵便局や八代小学校などのある八代地区の中心地から北西に約1km行った畑の中にぽつんと1本あります。ヤマザクラで推定樹齢100～150年。幹周り約4m、樹高約15m。花が咲く時期には多くの方が見物に訪れ、とても賑わいます。この地のシンボリック的存在として、地元の方々に愛されている一本桜です。

【写真左下】 宮崎支会「宮崎カーフェリー新船『たかちほ』『ろっこう』就航」

宮崎の「海の玄関」といえば、宮崎港。今年、25年ぶりに2隻の新船「たかちほ」「ろっこう」が就航しました。新船は、宮崎の自然やトロピカルフルーツをイメージした色彩に、伝統芸能の神楽で使用される「彫り物（えりもの）」の切り絵をモチーフとした内装デザインが施されています。以前のフェリーよりもワンサイズ大きく、トラックの積載台数3割近くアップしています。旅客定員は3割近く少なくなったものの、代わりに個室が増強されています。宮崎の産業の発展には欠かせない交通手段です。また、宮崎の観光を盛り上げるためにも、先生方も“アフターコロナ”を見据え、ご家族の旅行や修学旅行での活用を考えてみてはいかがでしょうか。ちなみに、宮崎～神戸間の所要時間は12時間20分から14時間40分だそうです。

【写真右下】 西都支会「銀鏡神社（西都市立銀上小学校・銀鏡中学校）」

1489年に創建された「銀鏡神社」では、毎年12月14日の例大祭において国指定重要無形民俗文化財「銀鏡神楽」が奉納されます。
銀鏡神楽の由来は500年以上遡りますが、式一番が「星神楽」であることから、古代の宇宙観をもとに継承されてきた神楽であるという解釈もあります。山村留学生も練習を積み重ね、神楽を伝承する一人として式三番「花の舞」を担います。

あ い さ つ

宮崎県公立小中学校教頭会

副会長 増 田 真 人

冷気が日ごとに加わり、冬の訪れを感じるようになりました。教頭先生方におかれましては、学校の中心的な存在として学校の運営を滞りなく進めるために尽力されていることと存じます。

新型コロナウイルス感染症については、まだまだ予断を許さない状態が続いていますが、県内各地で以前のようにイベントが行われ、多くの人で賑わいをみせています。このような中、学校に目を向けると、集団活動の場であることから学校行事等の短縮や放送等を活用した集会活動の実施など、各学校で工夫をした取り組みが行われていることと思います。

今後も学校での「働き方改革」を含め、学校の在り方をもう一度見直し、教育の質の向上を目指して創意・工夫を図っていききたいものです。

さて、各研修会がオンラインで実施されるケースが増えてきていますが、全国教頭研究大会もオンラインで行われました。ブレイクアウトルームの協議では、全国各地の教頭先生方と意見を交換でき、悩み等を共有できたことは大変有意義でした。残念ながら、九州教頭研究大会は中止となりましたが、提言者として準備に携われた先生方にお礼を申し上げます。次期開催県は、全国教頭研究大会が石川県、九州教頭研究大会が沖縄県となっています。どのような形で開催されるかは分かりませんが、宮崎県教頭会として関わることは確かであるので、実践を積み上げておくことは必要であると感じます。

先日、日本教育会宮崎県支部宮崎地区研修に参加させていただきました。研修会では、「学校教育をどうする？」と題し、宮崎県教育研修センター黒木貴所長の講演が行われました。講演では「地域」があって、「子ども」がいて、「学校」があるという基本理念や宮崎県の教育の現状をもとに、学校教育が地域に貢献するために管理職が高いマネジメント能力を発揮する必要があることを述べられました。黒木所長は、主に業務の企画・改善、職員の育成、経営理念の浸透の3点をあげられていました。3点に共通していたことは、当事者意識をもつこと、幅広い情報や知識に基づいた新たな発想で迅速・柔軟に変えること、そして分かりやすい言葉で繰り返し伝えることでした。思い切った行動が学校を変えていくことにつながっていくことを改めて感じ取ることができ、また同時に、自分に今足りないものは何かにも気づくことができた話でした。

業務の見直しは各学校において行われているとは思いますが、思い切った改善はもちろん、職員に分かりやすく繰り返し伝えることで、周囲の職員及び自らの意識も変えていき、より一層の働き方改革につなげていければと思っていますところでは。

最後になりますが、本会報誌にご寄稿いただきました各会員の皆様、並びに編集に携わっていただいた皆様に感謝を申し上げます。また、宮崎県公立小中学校教頭会の会員の皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念申し上げます。

支会だより

宮崎支会

1 構成

本支会は、小学校48校、中学校26校からの計74校の教頭から構成されている。

2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	増 田 真 人	宮崎市立住吉中学校
副 会 長	松 田 光 司	宮崎市立宮崎小学校
副 会 長	中 原 伸 一	宮崎市立櫛中学校
総 務（会 計）	角 田 知 一	宮崎市立加納小学校
研 究 部 長	福 山 憲 昭	宮崎市立櫛北小学校
研 究 副 部 長	古 賀 正 洋	宮崎市立大塚小学校
法 制 調 査 部 長	新 名 博	宮崎市立櫛小学校
法 制 調 査 部 長	大 田 原 千 佳	宮崎市立宮崎北中学校
広 報 部 長	上 森 義 郎	宮崎市立宮崎港小学校
監 事	矢 野 学	宮崎市立大淀小学校
監 事	竹 下 英 貴	宮崎市立宮崎東中学校

3 研究・研修の概要

(1) 研究・研修の基本目標

- ① 教育理念に基づく学校教育の実現
- ② 教頭としての力量の向上
- ③ 学校の社会的役割の推進

(2) 研究の基本方針

- ① 学校教育の課題の解決に努める。
- ② 教頭の職務内容や職務機能を迫及する。
- ③ 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす。

※ 昨年度に引き続き、令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、集まっでの研究協議は困難であることが予想されるため、令和元年度までの研究を生かしながら、各学校での実践を紹介するなど、可能な範囲での実践とまとめを行うこととする。

(3) 研究・研修の方法

- 大会発表等を視野に入れた班別研究

ア 宮崎県教頭会研究大会提言（紙上発表）

- ・ 第 5 班・・・「教職員の専門性に関する課題A」
- ・ 第 7 班・・・「教育課程に関する課題B」
- ・ 第 8 班・・・「組織・運営に関する課題」

イ 宮崎県教頭会研究大会紙上発表

- ・ 第 2 班・・・「教育課程に関する課題A」
- ・ 第 4 班・・・「組織・運営に関する課題」
- ・ 第 9 班・・・「子どもの発達に関する課題」
- ・ 第 10 班・・・「教職員の専門性に関する課題B」

ウ 宮崎市教頭会発表（予定）

- ・ 第 1 班
 - ・ 第 3 班
 - ・ 第 6 班
- } 班の課題に沿って研究を進める

(4) 研究の実際

- 8月の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したものの、その他の研修会は予定通りに開催でき、班別研究会を実施して上記の提言や発表等に関する内容の確認、研究のまとめ等について協議することができた。
- 教育問題セミナーでは、宮崎市教育委員会教育長の西田幸一郎先生などの講話を拝聴し、教頭としての資質向上を図ることができた。
- 支会の学校数が多いことから、今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、可能な範囲で研究の充実を図っていきたい。

4 令和4年度年間事業計画

月	事業内容	月	事業内容
4		10	21日（金）第3回役員会 中止
5		11	24日（木）第4回研修会予定
6	23日（木）第1回役員会 29日（水）教育問題セミナー（県武道館） 30日（木）第1回研修会	12	
		1	20日（金）第5回研修会予定
7	14日（木）教育問題セミナー 中止 21日（木）第2回役員会 中止	2	24日（金）第6回研修会予定
		3	10日（金）第4回役員会予定会計監査等、次年度に向けて
8	2日（火）第2回研修会 中止		
9	9日（金）第3回研修会		27日（月）第5回役員会

支会だより

東諸県支会

1 構成

本支会は、国富町（小学校4校、中学校3校）、綾町（小学校1校、中学校1校）の教頭で構成されている。

2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	小 侍 祐 一	国富町立木脇中学校
副 会 長	近 藤 洋	国富町立本庄小学校
副 会 長	山 下 克 幸	綾町立綾小学校
総 務	隈 元 修 一	綾町立綾中学校
会 計	芳 野 純 子	国富町立木脇小学校
研 究 部 長	福 嶋 芳 人	国富町立森永小学校
法 制 調 査 部 長	鶴 丸 夕 子	国富町立八代中学校
広 報 部 長	黒 木 博	国富町立八代小学校
厚 生 部 長	内 田 朋 代	国富町立本庄中学校

3 本年度の研究について

(1) 支会研修

- 研究主題
明るく元気な学校づくりを目指した働き方改革の在り方
- 研究のねらい
教師が明るく元気に働ける学校環境をつくるための働き方改革の在り方について考察する。

(2) 町別研修

- 綾町・国富町別に、各町内連携の確認及び情報交換など

(3) 学校経営（法規等）セミナー

- 講師 木脇小学校校長
- 内容 最近の教育の動向（法規等を含む）

4 主な事業計画

回	日時	主な内容	場所
1	5月20日(金) 14:00~16:30	○ 第1回支会教頭会 ・ 校長会会長講話(本庄中学校) ・ 役割分担、年間計画検討 ・ 代議員会報告 ・ 主題研究 ・ 町別研修	本庄中学校
2	6月16日(木) 9:00~12:00	○ 第2回支会教頭会 ・ 教育長講話(国富町教育長) ・ 主題研究 ・ 町別研修	国富町 農業改善 センター
3	7月14日(木) 14:00~16:30	○ 第3回支会教頭会 ・ 講話(綾小学校長) ・ 県専門部会報告 ・ 主題研究 ・ 町別研修	綾小学校
*	6月23日(木) 6月30日(木) 7月7日(木) 18:30~20:00	○ 学校経営(法規等)セミナー ・ 3回実施	木脇小学校
*	7月28日(木)~ 7月29日(金)	○ 全国公立学校教頭会研究大会	岩手大会
*	8月17日(水)~ 8月18日(木)	○ 九州地区公立学校教頭会研究大会	鹿児島大会
4	10月28日(金) 14:00~16:30	○ 第4回支会教頭会 ・ 講話(八代中学校長) ・ 教頭会研究関係 ・ PTA関係 ・ 情報交換 ・ 町別研修	八代中学校
5	12月上旬 14:00~16:30	○ 第5回支会教頭会 ・ 講話(森永小校長) ・ 主題研究 ・ PTA関係 ・ 情報交換 ・ 町別研修	森永小学校
6	2月中旬 14:00~16:30	○ 第6回支会教頭会 ・ 講話(八代小校長) ・ 主題研究 ・ PTA関係 ・ 情報交換 ・ 町別研修	八代小学校

支会だより

西都地区支会

1 構成

本支会は、西都市及び西米良村の小中学校の教頭16名で構成されている。
西都市は小学校8校、中学校6校であるが、うち3校は、小中一貫校である。
また、西米良村は、西米良中と村所小の一小一中である。

2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	青 山 勇 一	妻 南 小
副 会 長	畑 田 史 人	穂 北 小
副 会 長	齊 藤 学 友	穂 北 中
総 務	河 野 哲 志	三 納 中
会 計	南 真 紀 子	妻 北 小
会 計	勢 井 利 彦	三 財 中
研 究 部	古 賀 潤 一	三 納 小
研 究 部	小 出 純	銀 鏡 中
法 制 調 査 部	井 野 奈 津 子	三 財 小
法 制 調 査 部	鈴 木 一 成	妻 中
広 報 部	安 影 亜 紀	銀 上 小
広 報 部	太 田 誠 治	都 於 郡 中
厚 生 部	横 山 一 憲	茶 臼 原 小
厚 生 部	松 尾 洋 介	都 於 郡 小
< 西 米 良 >	岩 本 喜 樹	西 米 良 中
< 西 米 良 >	馬 場 義 和	村 所 小

3 研究概要

(1) 研究主題等

【小学校】 研究テーマ：子どもの発達に関する課題について
研究主題・副題：
「児童の特性に応じた適切な学びの保障」
～担任や保護者への支援及び関係機関との連携を通して～

【中学校】 研究テーマ：教育課程に関する課題
研究主題・副題：
「学校と地域社会とのつながりを教育課程に生かす教頭の関わり方」

(2) 研究目標

- ① 市教育委員会や校長会の指導のもと、学校運営上の諸問題及び教育的課題解決に向けた研究と実践を行う。
- ② 情報交換や研修課題を通して、教頭としての資質向上に努め、学校教育の充実と発展に寄与する。
- ③ 教頭間及び学校間の連携を図り、小中一貫教育や中学校再編、ICT活用の充実に向けて各校における教育活動を推進する。

(3) 研究内容

- ① 当面する学校運営上の諸問題に関わる情報交換及び協議
- ② 課題解決を目指す研究と実践
- ③ 服務研修に関わる法制研修

(4) 主な事業計画（予定）

月	事業名	内容
5月11日(水)	第1回教頭会研修会	役員決定・役割分担 西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
7月7日(木)	第2回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
8月22日(月)	第3回教頭会研修会・ 西米良村教頭会合同	GIGAスクール構想実現にむけたICT活用研修
10月19日(水)	第4回教頭会研修会	コンプライアンス研修（市教委）
11月30日(水)	第5回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
1月25日(水)	第6回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)
3月1日(水)	第7回教頭会研修会	西都市教育委員会指導・課題別研究推進 (全体・小中別研修)

(5) 研究の実際

① 部会別研修会

全体研修後、小中学校ごとに分かれ、課題研究の研修や各学校における教育課題の解決について情報交換を行う。西都市の中学校部会では、令和8年度からの新設中学校に向けての協議も行う。

② 中学校区での小中合同研修会

中学校区内の小中連携に関する情報交換や問題点について協議を行う。

支会だより

東 児 湯 支 会

1 構 成

本支会は、東児湯（小学校14、中学校9）内の5町23名の教頭により構成されている。

2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	六 車 哲 雄	高 鍋 西 小
副 会 長	田 邊 文 彦	富 田 中
会 計	押 川 志 保	木 城 小
研 究 部 長	川 越 和 俊	東 小
法 制 調 査 部 長	田 邊 文 彦	富 田 中
広 報 部 長	有 吉 英 伯	都 農 東 小

3 研修内容

各研修会・役員会等の実施に関しては、新型コロナウイルス感染症感染状況（以下「状況」）を見ながら判断してきた。どの事業も実施できていない。（10月末時点）
状況を鑑みて、研修の回数・時期・内容等、その在り方の検討が必要である。

4 今後の研修の実施について

- 前年度の反省から、本年度は紙面報告や紙面発表の他、オンライン等も積極的に活用して研修を実施する方向で考えている。状況を見ながら判断する。
- 集合研修等が困難な状況も予想される。
本支会構成メンバーである23名の教頭には、教頭としての更なる資質向上に努めるとともに、各校の教育課題解決に取り組むなど、「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の具現化に向け、日々の教育実践の充実を図ることとする。

5 事業計画

期 日	研修会・役員会	会 場	内 容
5月6日(金)	県教頭会第1回理事会	県教頭会館	県教頭会事業計画 等
5月中旬	第1回役員会	高鍋西小学校	事業計画案 各種連絡事項確認
6月17日(金)	県教頭会第1回研究部長会	県教頭会館	県教頭会研究計画
8月5日(金)	県教頭会第2回理事会	県教頭会館	
8月中旬	第1回東児湯教頭会研修会	高鍋西小学校	
9月9日(金)	県教頭会第3回理事会	県教頭会館	
11月7日(月)	県教頭会研究大会	県教頭会館	
12月上旬	第2回役員会	高鍋西小学校	
12月16日(金)	県教頭会第2回研究部長会	県教頭会館	
1月下旬	第2回東児湯教頭会研修会	高鍋西小学校	県教頭会内容報告 等
3月10日(金)	県教頭会第4回理事会	県教頭会館	年間反省・引継等

各支会新任副校長・教頭 随想

「真の教育にピリオドなし！」

宮崎市立宮崎南小学校 鮫島寛子

小学校教諭として採用された6年目に、県立特別支援学校へ転籍。特別支援教育を学んで5年ほどしたらまた小学校へと思っていた当初の思いとは大きく変わり、18年間特別支援学校という教育現場に身を置かせてもらいました。

そして今年度、児童数884名、職員数58名の宮崎南小学校へ赴任。ここ宮崎南小は、宮崎空港への離発着機が目の前を飛び、JRの線路が学校敷地のすぐ横を通る住宅地の中にありながら、南側の池ではシラサギやカモが悠々と羽を休める穏やかな環境です。題名は、58年間の教員生活をすごした先達から学んだ言葉です。「子どもの非を、その非は本人の責任にあつて、教師や親の責任にあらず。としたならば、その時点で真の教育はピリオドをうつ。」この言葉は、私の教育理念として、教頭という職責に身を置いた今、さらに強く根を張っています。

やる気いっぱい、やさしさいっぱい、元気いっぱい～きらきら、にこにこ、ぐんぐん～

「チームどんどん」

宮崎市立本郷小学校 松浦浩樹

今、教頭職として「ちむどんどん」することはなんだろう？そんなことを考えることもなく過ぎ去った4月からのこの半年であった。ただ、「チームどんどん」として学校のチーム力が高まるように、放課後に教室をふらっとまわっては先生たちと色々な話をしたり、まず自分が汗をかくことを心掛けたりするなど、今の自分にできることから始めてきたつもりである。

これからもいろいろな対応があると思うが、ときには冗談の一つも言い笑いながら、ときにはまじめに、教頭としての資質・能力を高めていきたい。

最後に、本郷小は「本気でGO! ありがとうがいっぱいの本郷小」という素敵な合言葉がある。学校がこの合言葉であふれるように、これからも子どもたちにとって何が大事かを考えながら日々の業務に取り組んでいきたい。

本気でGO! ありがとうがいっぱいの本郷小

「このはなの中学校」

宮崎市立木花中学校 花房英晴

宮崎県の小中学校の中で、学校名に「花」がつく学校は何校あるか知っていますか。正解は「木花中」「木花小」「学園木花台小」の3校です。苗字に「花」がついていることもあり、大好きな字です。凄く縁を感じるこの学校で、仕事ができることに感謝して頑張りたいと思います。と新任式で生徒に伝えました。

木花中学校は全校生徒319名の学校ですが、外国籍の生徒も多いからか、固定観念にとらわれず、他者の違いを素直に受け入れる雰囲気があります。女子生徒の中で、スラックスを履いている生徒も思った以上にたくさん見かけます。

おおらかな木花中生の良さをより引き出せるよう、経験豊富な先生方とともに頑張っていきたいと思っています。

「煌めく」7つの花びら～SEVEN STAGES～

「教頭としての私が今思うこと」

国富町立森永小学校 福嶋 芳人

教頭1年目、何はともあれ半年が過ぎました。私が教頭を目指したのは、これまでに会った教頭先生方との関わりの中で、自分も将来こんな仕事をしたい、このような教頭先生になりたいと思ったことがきっかけです。学級のこと、困ったとき、保護者の対応で悩んだとき、人生の岐路で悩んだとき、飾らず、自分の気持ちで誠実に且つ的確にアドバイスをしてくださったあの教頭先生。自分がその立場となった今、はたして、目指す姿になっているのだろうか……。自分の後ろ姿を見て、どこかしら目標にしてもらえるようになれば幸いです。先生方との関わり一つ一つを大切に、校長先生に教頭のいろはを学びつつ、日々、精進していかなければと思う今日この頃です。

自然が豊か・人間が温かい 森永小

「北方小に赴任して」

串間市立北方小学校 鶴田 博幸

北方小は串間市の中心地から少し離れた田園地帯に立地する全校児童77名の小規模校です。職員数は15名。学校の周りにはなだらかな山々が囲み、清らかな川が流れ、田園を吹き渡る風は爽やかです。北方小の児童は心優しく、素直です。保護者も学校運営に協力的で、PTA活動にも熱心に取り組んでくださいます。そして、職員も仕事熱心で、児童や保護者の方々に誠意をもって接しています。

このような素晴らしい学校に新任教頭として赴任させていただいたことに感謝しています。教頭職1年目。校長先生をはじめ、本校職員並びに地域の皆さん、そして串間市内の他の教頭先生方にいろいろと教えてもらいながらの毎日です。いろいろなことを教わりながら、少しでも北方小の教育活動、串間市の教育活動に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

宮崎県子供自転車大会7年連続No.1 串間市立北方小学校

「新任教頭雑感」

串間市立大平小学校 江藤 彰一

串間市立大平小学校は、児童3名、職員6名の学校です。学校のある串間市大平地区は自然が豊かなところで、地域の方もとても温かく、子どもたちを学校と一緒に育ててくださっています。子どもたちも、大平のことが大好きで、この学校で学べることを誇りに思っていることが伝わってきます。

新任教頭として、本校に着任し、半年が過ぎました。初めての業務に戸惑うことも多いですが、木場校長先生をはじめ先生方、保護者、地域の方々に支えてもらいながら仕事を進めているところです。小規模の学校であり、人数は少ないですが、人数が少ない分一人一人との関わりが強いことがよさで、何でもみんなでチャレンジし、みんなで喜びを共有しながら、一日一日を精一杯頑張っています。

「あいさつ日本一」「やさしさ日本一」大平小学校

「自分の役割（期待）とは何か？」

西都市立茶臼原小学校 横山 一 憲

この4月、茶臼原という歴史ある土地に縁あって赴任させていただいた。「天は父なり 人は同胞なれば 互いに相信じ 相愛すべきこと」これは、孤児の父 石井十次の言葉であり、本校はこの博愛の精神が息づく学校である。全職員が、学校の教育目標の具現化に向けて、家庭・地域と連携を図りながら、「かかわり」と「見届け」を基盤とした教育の実践に一丸となって取り組んでいる。「この学校に自分が赴任した意味とは？」「自分の役割（期待）は何か？」そんな思いで、4月から教頭職を拝命し半年が過ぎたが……。これからも一つ一つの仕事を誠実に、積み重ねていながら、信頼される「教頭」になれるよう精進していきたい。

継続は力なり ～努力はたし算 協力はかけ算～

「普通の教員が管理職に！？」

西都市立三財小学校 井野 奈津子

去年まで、学級担任として国語や算数を教え、ジャージに着替えて児童と一緒に身体を動かし、通信を書き、テストの採点をし、仕事が終わったらさっさと帰宅する普通の一教員だった私。そんな自分が今、前任校の管理職の勧めもあり、職員室の前に座って教頭をしています。学担の仕事も大好きな仕事でしたが、私は一度教員も辞めてブランクもあり、我が子は小学生だし、教務もやったことないし、管理職なんて関係ない話だと思いながら働いていたのが正直なところです。

役割がガラッと変わり、わからないことの方が多のですが、その中で、「同じ職場で働く先生方の苦労や喜びを理解できる管理職になりたい」と強く思うようになりました。家庭との両立は難しいです。しかし、私が学担だったら、親だったら、地域の人間だったら・・・と置き換えながらこれからも地域や子供たち、先生方の役に立てる仕事を丁寧にしていきたいと思っています。

黒土大地のもと 三つの財をもつ 地域に貢献できる素直で前向きな児童生徒の育成

「万歳、万歳、三財！！！」

西都市立三財中学校 勢井 利彦

右回りのルーティンで校舎を回ると、目覚めた小鳥たちが朝日を浴びてひときわ賑やかになる。ここ三財小中学校は、宮崎県のへそ（中心）と言われるきわめてのどかな大地にあり、児童生徒178名が元気に学んでいる。赴任して半年、常々感心させられるのは子供たちの頑張り。少人数ながらバイタリティに溢れている。探究の成果を競う「さいと学アワード」では最優秀賞を獲得し、英語暗唱弁論では両部門で県大会に出場。また、地区秋季大会では、3つの部活動全てが県大会出場を決めた。その間、小中合同運動会や黒土祭を作り上げ、地域の方々と共に3年ぶりの「三財へそ祭り」を成功させた。自慢ばかりになるが、最後にもう一つ。その子供たちを導いているのは、小中学校の先生方である。その熱き思いと明るさ、チームワークに頭が下がる。私は、教頭として、先生方と子供たちが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、これからもサポートしていきたい。

黒土大地のもと、三つの財（たから）をもち、地域に貢献する児童生徒の育成

「ピンチヒッター」

新富町立上新田中学校 田 爪 賢 志

4月からパソコンと向き合う時間ばかりが増え、何とか職務をこなすので精一杯だった日々から少しずつ余裕が生まれ始めた頃、ピンチヒッターとして授業、部活動を任されることになりました。大変になるぞ、という気持ちで一杯でしたが、授業や部活動を通して生徒とふれ合い、会話をしている中で、生徒をこうさせたいという思いや、やりがいを感じることも多くなりました（もちろん色々な先生方の協力もありました）。

今、働き方改革がさげばれ、職員の帰宅時間を少しでも早くする取組等が行われています。当たり前ですが、それに加えて「やりがいを感じて仕事をする事」も大切なのだなと実感しました。まだまだ管理職として未熟で、そのように先生方に思ってもらえるために何かをすることはできないと思いますが「やりがいを持って仕事をする事の大切さ」を意識しながら先生方と学校のために頑張っていきたい、と思うことができました。このピンチヒッターに感謝！

協和・向上・上学宣言

「木城町立みどりの杜木城学園の開設に向けて」

木城町立木城中学校 渡 邊 昭 博

今年4月、初めて教頭として木城中学校に赴任し、期待と不安の入り混じる不思議な感覚の中でスタートしました。そして約半年が過ぎ、徐々に慣れてきたとはいえまだまだわからないことだらけの毎日です。校長先生からの的確なアドバイスや職員の皆さんの温かな雰囲気、そして小学校の教頭先生やPTA役員の方々のサポートのおかげで、どうにか教頭として務めさせていただいております。

本校は来年度から義務教育学校「木城町立みどりの杜木城学園」として新たにスタートすることになります。そのために、本年度から主要な行事を小・中学校で一緒に行ったり、相互に乗り入れ授業を展開したり、校務分掌も小中合同にしたりと、いろいろと準備を進めているところです。

教頭としても新米で、いろいろわからないことだらけなのに、加えて義務教育学校の新設と、なかなか経験することのない状況を日々かみしめ、味わいつつ、教頭として頑張っていきたいと思います。

未来を拓き、木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

「温かい配慮ができるよう」

都城市立吉之元小学校 桑 迫 明

私は、小さい頃から大の巨人ファンで、長嶋監督のことが大好きです。人は、おっちょこちょいとか、コンピュータとか評します。確かに数えきれないほどのエピソードがあるせいかもしれません。

ある日の試合のことです。同点のまま9回裏を迎え、長嶋監督は守備固めとして守備のスペシャリスト、屋鋪選手をセンターに入れました。ところが、フライが上がった瞬間、その屋鋪選手がボールを見失い、後ろにそらしてしまったのです。このエラーで巨人はサヨナラ負けとなりました。

試合の後、静まり返った屋鋪家に、長嶋監督から1本の電話が掛かってきました。「君ほどの名手が捕れないんだから、あの飛球は誰にも捕れないよ。また明日からがんばってくれ。」と。新任教頭として赴任し、早7か月が過ぎました。長嶋監督みたいに、温かい配慮ができるよう、目の前の子ども達に、目の前の先生方に向き合っていきたいと思います。自戒を込めて・・・。

「あいさつ へんじ ありがとう」

「朝の貴重な1時間」

都城市立夏尾小学校 川野 徹

特認校制度をとっている夏尾小は、校区外から通学している児童が多く、地元の子も含めほとんどが保護者による送迎で登下校しており、それを迎えるのが日課の一つとなっています。早い子は7時過ぎに来るので、約1時間体育館前の駐車場で子どもたちを待つことになります。初めのころは、「この1時間で事務仕事の一つ二つできるのになあ」などと思ったりもしたのですが、一日に一度、全校の児童、保護者と顔を合わせるこの1時間は、自分にとって大変貴重な時間となっています。挨拶はもちろん児童との他愛もない会話、保護者へ学校や担任の先生からの連絡をしたり、保護者からの要望や相談を受けたりすることもあります。学校への協力に対するお礼を伝えることもあれば、逆に感謝の言葉をいただくこともあります。中庭を飾る花や木に四季の変化を感じながら、毎朝全校の児童、保護者とふれ合うこの時間は、夏尾小ならではの贅沢なひとときと言えるかもしれません。

「豊かな環境」と「少人数」を活かした魅力ある学校

「ひとつひとつ」

都城市立明和小学校 関 裕 章

新任教頭として本校に勤務し、半年が経った。「何をしたいのか分からない」「何をしているのか分からない」という感じだった4月と比べると、ずいぶん落ち着いて過ごすことができるようになった。しかし、次から次に届くC4th、どこからともなく聞こえてくる「教頭先生!」という声、突然発生する諸問題への対応に追われる毎日には変わりはない。本校の校長先生や教務主任にたくさん助けられ、また、先輩の教頭先生や同僚の先生方にいろいろ教えていただきながら何とかやっている。

教諭時代を過ごした本校で7年目の再スタートをきったわけであるが、学校を歩いていると当時の子どもたちや職員と過ごした日々が思い出される。気持ちはあの時と同じつもりであるが、違った視点で学校全体を見つめなければと思っている。

これからも目の前にいる子どもたちのために、ひとつひとつ精一杯取り組んでいきたい。

学校の持ち味は“右一静歩(みぎいちせいほ)”です!

「学びを重ねる」

新垣 美弥子

都城市立麓小学校

中心部から車を走らせると、いつの間にか深い暁霧に包まれます。朝日が射し、霧は晴れ、雄大な霧島山を北西に望めるそこに麓小学校はあります。自然豊かな麓地区に育つ子どもたちは、とても素直です。高学年が低学年の世話をするのが当たり前となっていることに感動しました。それは、人形浄瑠璃、六十田剣舞と伝統文化を大切に受け継ぐ地域の方々の姿があるからでしょう。地域の方々は「教頭先生、あんよね・・・」と麓小の昔話を語って下さる温かなお人柄の方ばかり。そのような、素晴らしい地での勤務は、毎日、新しい学びの連続です。教頭としての「覚悟」を確かにするため、私に必要なのは自信をつけていくことです。校長先生はじめ、職員、地域、保護者、皆さんから教わることを、様々な状況で生かせるよう自分なりに考え、子どものため、学校のために努めています。

よく学び 明るい笑顔 げんきいっぱい 麓っ子

「学校・地域と共に育む」

都城市立中郷中学校 時 任 弘 美

中郷中初日、「かねみん」（生徒会の考案した金御岳の妖精マスコット）を先頭に生徒会執行部からあたたかい歓迎を受けた。素朴で屈託のない笑顔が印象的で、故郷を愛し、様々なことに挑戦しているように見える生徒達と出会い、新しい生活への期待と責任の重みを感じた。「管理職に就くことは、転職することと同じ」と研修で聞き、校長より多くの指導を賜りながら、職務の重さを実感している日々である。PTAをはじめ、学校運営協議会などの地域の方々から多くの支援をいただいております。どの方も「中郷の生徒はいいやろ！」と笑顔で誇りをもってお話をされる。これまで先生方が積み上げてきた信頼と地域の方々の郷土愛の賜物であると感じている。コロナ禍で地域と接する機会が減ってきているが、教頭として“支え合える風土”を大切にしながら、みなさんをつなぐ架け橋となり、生徒がよりよく安心して成長できる環境をつくりあげていきたいと思っている。

「地域に誇りをもって、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷の子ども」

「学び続け、応える教頭」

都城市立山田中学校 長 友 克 憲

平成3年4月、新任の数学教師として採用され、中1の学級担任と野球部の顧問を任された。教師とどうあればよいのか？この命題に自分なりの結論を出すために、「常に真摯であれ」「粘りと吟味」という言葉を胸に、生徒や保護者と向き合い、また、多くの先生方から学んできた。

4月から新任教頭として勤務しているが、これまでのように名前を呼ばれることはなく、「教頭先生」と呼ばれている。自分の行動は、すべての『教頭』のイメージを創ることになるのだと身が引き締まる思いがしている。今回の寄稿に際して、先生方が少しでも働きやすいように、先生方が勤務して楽しいと思えるように、先生方をしっかり導けるように、これからも学び続けながら教頭として成長していきたいと改めて決意している。

地域と協働し、開かれた学校を創り上げながら、明日の宮崎を創る人材を育てていきたい。

朝夕に 高千穂之峰 仰ぎ見る 山田の子らに 根付くボランティア

「自分の責務を全うするために」

小林市立永久津小学校 黒 木 賢 一

4月に永久津小学校に赴任し、半年が過ぎた。初めて経験する教頭職は、教務主任としてみていた「教頭」像と重なる点もあったが、自分が描いた教頭職とは違い、学校全体はもちろんのこと地域との深い関わりにある学校としての役割をより一層感じる日々であった。本校は小中一貫教育による連携がすべになされ、地域との連携も確立しており教育の環境は素晴らしいものがあると実感できる学校である。こうした恵まれた環境において、教頭としての役割とニーズは何か自問自答する半年間であった。こんな新米教頭でも、校長や仕事に対して誠実でチームの和を大切にしてくれる先生方に助けられながら、ここまで乗り切ることができた。さらに、地域と保護者からのあたたかい学校への支援・協力もあり、永久津小で仕事ができることの喜びを噛みしめている。「今、そしてこれから自分の責務は何なのか」常に考えながら学校経営ビジョンにそった取組を評価しながら一歩でも前進できるように、そして、本校の子どもたちが夢をもって生きていく力を育むことができるように、日々奮闘していきたい。

笑顔と思いやり、意欲あふれる永久津っ子

「地域に見守られ、地域に応援される学校を目指して」

えびの市立飯野小学校 津奈木 考嗣

えびの市は、美しい川内川の水と霧島カルデラの肥沃な土地で育てられた特急米「ひのひかり」が有名である。美味しい食べ物と美しい自然に加え、地域からの温かな眼差しや保護者の深い愛情のおかげで、本校の子ども達は素直で優しい子どもばかりである。

実は、私も本校の卒業生であり、久しぶりに故郷へ帰り母校で働きながら、昔から変わらぬ地域の温かさや、地域の中にある学校としての期待をされていると日々感じている。

各地で甚大なる被害をもたらした台風14号は、本校にも大きな傷跡を残して通過していった。校庭の大木がなぎ倒され、台風通過後の校庭は見るも無惨な状況であった。すると、保護者や中には卒業した子どもの親もOBとしてすぐに駆けつけ、子ども達の明日からの登校に支障がないようにと、休日返上で泥だらけになって復旧作業をしてくださった。こうした地域の皆さんの思いや支援に感謝をし、子ども達に最大限の愛情を注げるよう頑張っていきたい。

命（いのち）を大切にする学校 飯野小学校

「笑顔が絶えない学校を目指して」

小林市立須木中学校 前田 泰博

教頭として赴任し半年が経過した。前任校までは教務主任をする機会が度々あり、その都度、教頭先生方の仕事を隣で拝見してきた。地域や学校の特色に応じて忙しくも充実した仕事をされる姿は私が抱く教頭職への良き見本ともなった。しかしながら4月の赴任直後からしばらくは多岐にわたり経験したことのない業務の多さに右往左往してしまっただけで、これまで隣で仕事をされてきた教頭先生方が「このような仕事を当たり前でされてきたのか・・・」とかなり遠い存在に感じてしまい、唯々、日々を乗り切るのが精一杯だった。そのような状況の中、校長先生をはじめ周りの先生方には随分助けられ、半年を経過した今は、少しずつではあるが、学校のあるべき姿を考え行動できるようになってきた。須木中校区は小林市から「ICT教育研究モデル校」に昨年度より指定を受けている。先生方は日々、ICTを駆使しながら魅力的な授業を展開し、生徒達も笑顔で伸び伸びと活動している。この環境の中で教頭職を勤めることにつくづく有り難みを感じている。

「Brand of 須木中」一人一人がオンリーワン☆皆で奏でるハーモニー

「新任教頭としての所感」

延岡市立名水小学校 佐藤 健太郎

新任教頭として、名水小学校に赴任することが決まった。願書を書く度に、自分のなりたい教頭像は、今求められている学校像は、地域像はどういうものなのかを考え続けてきた。そして今、実際に教頭として赴任し、仕事をしていく中で理想と現実のギャップに戸惑うばかりの日々。自分の理想に少しでも近づけるよう努力する毎日である。私は延岡市での勤務が長く、ふるさとの地域や保護者に救われることが多かった。異動した先々で出会った人々と再会し、仕事ができることをうれしく思う。名水小でも素晴らしい人々との出会いがあった。今よりもっと子どものことを好きになり、職員を好きになり、保護者や地域のことを好きになっていけるように教頭職を全うしていきたい。これまで多くの失敗を繰り返してきた。そんな自分をこれまでお世話してくださった管理職の先生方をはじめ、たくさんの先生方や保護者の皆様、そして子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいである。少しでも恩返しできるよう、この名水地区・延岡のためにこれからも頑張っていきたい。

子どもも職員も保護者も地域も最高！昔からずっとコミュニティスクール！パラダイス名水！

「うちの学校は」

延岡市立三川内小中学校 西山 慎太郎

延岡市北浦町三川内は清流「小川（こがわ）」の支流にあたる5つの地区からなるのどかな農村地区です。小学部30名、中学部16名で特認校の指定を受けているのでここ数年で児童生徒数は増加して学校が賑やかになってきています。

教頭昇任直後の4月には日々の仕事に追われ三川内の自然を感じる心の余裕がなかったのですが、少し落ち着くとこの地の良さが本当によく分かります。住んでいる人のよさ、自然のよさ、環境のよさ、伝統文化のよさなど多くの魅力に溢れていて、そんな学校に赴任できたことに毎日感謝の日々です。そんな中で私が大切にしている言葉があります。以前仕えた校長先生に教えていただいた『異動した後「この学校は」と言っているようじゃまだまだ。早く「うちの学校は」と言えるようになりなさい。』という言葉です。自分が勤務できる限られた時間にどれだけその地域を愛し、関わることができるのか？常に自問自答しながらこの言葉を胸に、今日も新たな気持ちで学校の子どもたちと向き合っていきたいと思えます。

宮崎大学地域創成学部と連携して三川内の魅力を発信！ 地域創成学習実施中！

「おかえりなさい、教頭先生」

日向市立東郷小学校 東木場 信貴

「おかえりなさい、教頭先生」4月に教頭として着任した際、子どもたちに、保護者に、そして先生方にそう声をかけられた。3年前まで勤務していた学校に戻ってきた私を、大変温かく迎えていただいた。懐かしさと嬉しさと、この学園で精いっぱいがんばろうという気持ちをもったことを今でも覚えている。

本校は、日向市の西側に位置し、冠岳や美々津川、坪谷川などの豊かな自然に囲まれながら、児童生徒119名が毎日元気に登校している。日向市東郷町は若山牧水先生の生誕の地であることから、本校では短歌朗詠や牧水かるたなどの活動を継続して取り組んでいる。様々な場面で響き渡る児童生徒の短歌朗詠を聞くと何だか元気が湧いてくる。

教頭としてこの学校でスタートできたことを本当に感謝している。そして、保護者の皆様や地域の方々に支えられていることにも感謝しながら、学校の教育目標にあるように、東郷学園の児童生徒を「真直ぐにのばせ」られるように微力を尽くしたいと思う。

若竹の 伸びゆくごとく 子ども等よ 真直ぐにのばせ 身をたましひを

「支えられて」

椎葉村立大河内小学校 門松 昭博

9月18日（日）台風14号が九州を直撃しました。▼台風通過後の19日（月）。学校に行くと、校舎裏のコンクリート吹き付けの法面が崩れ、土砂が校舎に押し寄せていました。幸いにして窓ガラスは割れませんでした。半分程まで土砂で埋まり、重みでガラスがたわんでいました。道路はスクールバスが通れる状態ではなく、停電も続き、学校再開の目途は立ちません。▼20日（火）。保護者全員と地元消防団の方々が、窓ガラスに接していた土砂の撤去をしてくださいました。重機が入れない状況の中、4時間の手作業でした。▼21日（水）。九電と九電工の方々が、夜9時までかけて、地区と学校の停電を復旧してくださりました。▼翌週26日（月）、ようやく学校を再開することができました。学校を支えてくださるすべての方々に感謝しかありません。

元気な教職員の集う 元気な学校で 元気な子どもを育てる 大河内小学校

「義務教育学校に赴任して」

西郷義務教育学校 押川清憲

本校に赴任が決まり、「義務教育学校とは？」の疑問から始まり、「義務教育学校」について調べたり、学校のHPを視聴したりしてのスタートであった。本校は、田代幼稚園、田代小学校、西郷中学校が一つの学校に生まれ変わり、幼稚園教育と義務教育の連携を図ることで、連続性のある学びの実現を目指している県内初の義務教育学校、そして開校2年目の若い学校である。前述したとおり、幼稚園児から9年生（中学3年生）までの11学年が在籍しており、毎日が賑やかで楽しい。「与えられる教育から、自らつかみとる学びへの転換」を教育活動のテーマとし、特色ある教育活動も多く、日々刺激を受けながら業務にあたっている。そして何よりも、校種の異なる職員との交流は学ぶことが多い。教頭2人配置で、隣にいる先輩教頭からすぐに学べるありがたい環境もある。「感謝」の気持ちを忘れず、一人前の教頭になるべく、日々努めていきたい。

「子どもたちが 自分たちの力で 自分たちの学校を創っていく」学校
「大人たちが 自分たちの生き方（教育実践など）を語れる」学校

「挑戦」

日之影町立宮水小学校 田中匡浩

宮水小学校の玄関前には、「挑戦」と書かれた石碑があります。平成元年の卒業記念に建てられたものです。これまで多くの児童、職員がこの石碑を見ながら過ごし、各々の目標に挑戦していたのだらうと思います。私も今年はその1人として、何事にも挑戦という気持ちで頑張っています。

日之影町では年に3回、町の教職員が集まって行う研修会があります。以前、教育長の挨拶の中で「ウェルカム困難、サンクス失敗」というお話がありました。成功だけでは学びはない。失敗からこそ大きな学びがある。失敗を恐れずに何事にも取り組んでほしいという内容でした。

教頭職に就き半年が過ぎ、まだまだ新たな業務に奮闘の日々です。『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』、知らないことや不慣れなことを避けるのではなく、日々「挑戦」をして自分を高め、子どもたちの成長に寄与する管理職を目指していきたいと思います。

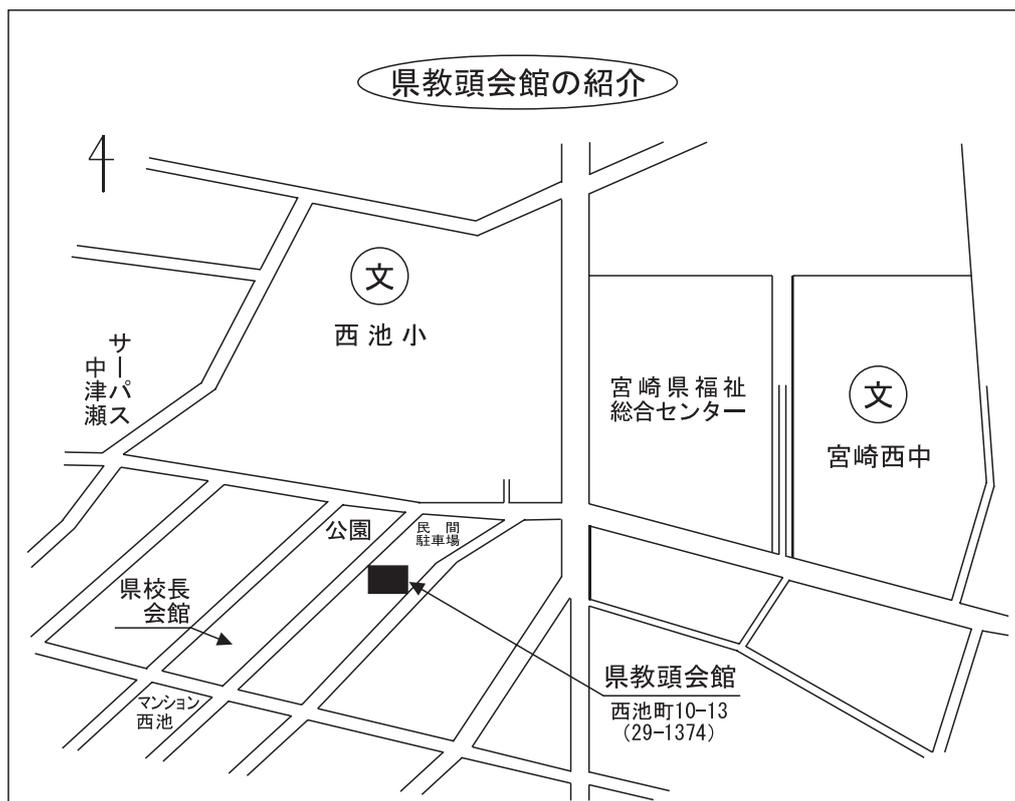
確かな学力、豊かな人間性、たくましい体をもち、進んで行動できる児童を育成します！

「人と自然が光りかがやくまち」

日之影町立日之影中学校 濱砂俊洋

日之影町は、農業、林業などの産業や祭りや民芸などの伝統文化の根ざす、自然豊かな魅力あふれる町である。町の名の由来は、ある神話にあるとうかがっている。それは『三毛野命が鬼八退治に向かう途中大雨が降り、神に祈ると不思議なことに雨が止み、「日の影（雲間の日射し）」が射し、「なんと有難い日の影か」と語った。』という神話である。この町で光りかがやいているものには、まぶしい太陽、豊かな緑、清らかな水、美しい渓谷や橋がある。中でも最も光りかがやいているものは、この町のあたたかい『人』だと考える。本校は、キャリア教育や大人歌舞伎・深角団七踊り、藁細工等の伝統文化の学習をはじめ、様々なご支援を保護者や地域、役場の方々よりいただいている。「みなさまのおかげさま。」周りの皆様に感謝を忘れず、日々職務に邁進していきたい。

「ひのかげ近未来会議・ひなた場」等のキャリア教育やICTを活用した教育が特色です



編集後記

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・、日一日と深まりゆく秋ですが、県教頭会会員の皆様にとっては、どのような秋をお過ごしでしょうか。私は、年間を通して業務に追われる日々を過ごしています。いつの日か業務を追いかける人になりたいと思いながら…。

さて、どの学校においても夏休み明けから、体育大会・運動会、文化発表会・学習発表会、合唱コンクール、鑑賞教室と学校行事盛りだくさんの日々を過ごされてきたことと思います。新型コロナウイルス感染症もかなり落ち着き、通常の学校生活、学校行事を取り戻しつつあり、普通であることのありがたさや大切さを痛感しております。

しかし、最近の傾向をみとみるとまたしても感染者数が微増になっているようです。この会報が発行される頃にはどうなっているのか、不安になりながら後半の学校生活を考える自分の姿が、一刻も早くなくなる状況になって欲しいと祈るばかりです。これからも感染拡大防止に細心の注意を払いながら学校運営、管理に努力していきたいものです。

最後になりましたが、たいへんご多用な時季に原稿を執筆していただきました関係の先生方のご協力により、無事に教頭会報第142号を完成させることができました。関係の方々にご心より感謝申し上げます、会員の皆様にとって実り多き秋になることを願いますとともに有意義な年末年始・冬季休業となりますことを心からご祈念申し上げます。

令和4年11月

宮崎県公立小中学校教頭会 広報部



MVPA